

| <div style="text-align: center;">発行者名</div><br>採択基準  | 教育出版（中学器楽 音楽のおくりもの）   |
|--|---|
| 1 教科の目標からの配慮   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 奏法や運指が詳細な写真や動画で示され、音楽表現をするために必要な知識及び技能を身に付けられるよう配慮がなされている。</li> <li>・ 教材の活動のポイントが簡潔に記載されており、他者と協働的に「音楽的な見方・考え方」を働かせて学べるよう工夫がなされている。</li> <li>・ いろいろな編成での合奏教材が掲載されており、生徒が主体的に取り組めるよう工夫がなされている。</li> </ul>   |
| 2 生徒の学習活動への配慮<br>○内容の程度<br>○学習活動への誘意性<br><br>（本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）   | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 楽器のおもしろさが体感できる楽曲から系統的に題材が配列され、興味をもって学習が進められるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 演奏に必要な技能を焦点的に学ぶことができる教材が最初に配列され、基本的奏法を習得できるように配慮がなされている。</li> <li>(3) 比較鑑賞をしたり、楽器の特徴を調べて共通点や相違点を話し合ったりするページが設けられ、主体的・創造的に学習できるよう配慮がなされている。</li> <li>(4) 「深めてみよう」のコーナーでは、鑑賞と合わせた表現の学習や各楽器のいろいろな奏法の体験等、多様な音楽活動ができるよう工夫がなされている。</li> <li>(5) 判読性、視認性の高い配色がなされたレイアウトや、ユニバーサルデザインフォントの使用により、可読性・可視性を高められるよう配慮がなされている。</li> </ol>  |
| 3 学習指導への配慮<br>○単元・題材の配列<br>○内容の扱い<br><br>「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 奏法や運指等の写真や演奏動画を使い、無理なくやさしい曲を習得した後、「Let's play」「Let's try」では幅広いジャンルから精選した合奏教材を選べるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 教材曲が幅広いジャンルの中から精選されており、生徒が多様な音楽に親しめるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 「弾く楽器の仲間たち」「吹く楽器の仲間たち」のページでは、日本や世界の楽器の特徴について調べたり比較したりし、学習をさらに深められるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) ギターのコード表は写真入りで視覚的に示されており、和楽器は伝統的な縦譜と横譜（五線譜）の両方が示され、学習活動に応じて利用できるよう配慮がなされている。</li> <li>(5) 世界の楽器の写真が多く掲載され、音楽文化に豊かに関わるができるよう工夫がなされている。</li> <li>(6) 各題材の最後にある「まとめの曲」において、学習のポイントを評価の観点として自己評価しながら演奏し、学習のまとめをすることができるよう工夫がなされている。</li> </ol> |
| 4 全体的な特色   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平易な技術でその楽器のおもしろさを体感できる楽曲で技能を身に付けた後、発展的な内容を多角的な視点で学び、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて活動できるよう工夫がなされている。</li> <li>・ 創作や鑑賞の学習と関連付けたり、日本と世界の楽器等を比較したりできる構成になっており、生徒の対話的な学びや深い学びを促すよう工夫がなされている。</li> </ul>   |

| <div style="text-align: right;">発行者名</div><br>採択基準  | <div style="text-align: center;">教育芸術社（中学生の器楽）</div>  |
|---|---|
| 1 教科の目標からの配慮  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各楽器の演奏準備、奏法が詳細に示され、音楽表現をするために必要な技能を段階的に身に付けられるよう配慮がなされている。</li> <li>・ 教材ごとに、具体的な学習活動例が記載されており、主体的・創造的に学習を進められるよう工夫がなされている。</li> <li>・ 楽器の奏法、種類、編成、鑑賞曲等が多面的に紹介されており、生徒が主体的に取り組めるよう工夫がなされている。</li> </ul>   |
| 2 生徒の学習活動への配慮<br>○内容の程度<br>○学習活動への誘意性<br><br><div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;">             本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等           </div>   | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 平易な技術で演奏できる曲から掲載される等、中学生の発達段階に応じて学習を進めていけるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 生徒が初めて取り組む楽器においても、小学校での学びを生かして、無理なく取り組むことができるよう配慮がなされている。</li> <li>(3) 教材ごとに学習目標に迫るための具体的な学習活動の例や表現のヒント等が示され、主体的・創造的な活動が進められるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 楽器ごとに参考曲やさまざまな演奏形態の写真が提示されていたり、創作の学習が設定されていたりと鑑賞と表現を一体化させながら多様な音楽活動が実現できるよう工夫がなされている。</li> <li>(5) ユニバーサルデザインフォントの使用、識別しやすい配色等、全ての紙面、図版、イラストについて、可読性、可視性を高められるよう配慮がなされている。</li> </ol>   |
| 3 学習指導への配慮<br>○単元・題材の配列<br>○内容の扱い<br><br><div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;">             「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価           </div> | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) どの楽器も持ち方、姿勢、チューニング等基礎的な事項を丁寧に扱った上で、徐々に曲の難易度が上がる教材が配列されており、無理なく系統的に学んでいけるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 学んだ作品を楽器で演奏できるよう楽譜が示され、既習の学びを生かせるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 各楽器の基本を学んだ後、「アンサンブルセミナー」で発展的内容を扱い、「音楽的な見方・考え方」を働かせながら、対話的・協働的に表現を深めることができるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 実態に応じた選択可能な楽譜の提示、理解を助けたりイメージを広げたりする二次元コードの配置などにより、個に応じて弾力的に学習を進めていけるよう配慮がなされている。</li> <li>(5) 各楽器の特徴や奏法等が鮮明な写真や図で説明されており、生徒がイメージをもちながら取り組めるよう工夫がなされている。</li> <li>(6) 学習問題や「演奏のポイント」「練習のポイント」等が記載され、自己評価をしながら学習を進めることができるよう工夫がなされている。</li> </ol> |
| 4 全体的な特色  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽を形づくっている要素を、学習指導要領に示された文言で記載し、「音楽的な見方・考え方」を働かせて活動できるよう工夫がなされている。</li> <li>・ 演奏家の写真やメッセージに加え、さまざまな演奏場面等を掲載し、楽器に興味をもったり、生活や社会における音楽の役割を意識したりしながら学習できるよう工夫がなされている。</li> </ul>   |